

花と緑の銀行だより

228号 2023.8



グリーンパーク吉峰
ラベンダー花まつり
(写真：立山町)

目次

- ・花と緑の提言 次世代に誇れる「美しい町 立山」を目指して（立山支店） 2
- ・活動事例 みんなで取り組むハートの花壇を目指して（砺波支店 南般若地方銀行 頭取 西田光雄） ... 3
- ・技術講座 富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン
～ 44 ツボミギボウシ ～（職藝学院 渡邊美保子） 4
- ・緑づくりコーナー 庭木に利用する樹種の特徴と管理 ～ イチイ ～（樹木医 西村正史） 5
- ・事業紹介 「わたしの寄せ植え」について（緑花推進部） 6
- ・この人あり 花で広がる仲間の幸せ（朝日支店 泊一区地方銀行 頭取 舟橋 誠） 7
- ・お知らせ 50周年記念 花と緑の大会など 7



次世代に誇れる「美しい町 立山」を目指して

花と緑の銀行 立山支店長
立山町長 舟橋 貴之

立山町は、富山県中央部から南東に細長く位置し、立山連峰や立山黒部アルペンルート、称名滝を有しており、平野部には豊かな大地が広がっています。

このような豊かな自然環境を守り、後世につなぐため、昭和62年7月15日に京都で発表された「緑維新京都宣言」に共鳴した当時の町長である富樫清二氏が、第1回「みどりの日」を契機に、全国初の「みどり維新の町」を宣言し、「立山町みどりの憲章」を制定しました。これは、自然と共に生き、その恵みに感謝しながら、「心に緑」を合い言葉に、心一つにして平和なまちづくりに努めるために定めたものです。

本年は憲章制定35年目、加えて町制施行から70年の節目にあたることから、4月29日に「みどりのイベント～守り活かそう地域の里山～」をグリーンパーク吉峰において開催しました。当日は、立山花とみどりの少年団の児童と一緒に「立山町みどりの憲章」の朗読を行い、先人の決意に改めて思いを寄せ、自然を愛し、その恵みに感謝することを誓いました。



写真1 みどりの憲章の朗読

また、同敷地内にある山野草園にてジエビネやカノコユリ等の山野草の植栽を行いました。元気に成長してほしいと願いを込めながら、大切に苗を扱う児童たちの姿に立山町の次世代を担う若い力が着実に育っていることに喜びを感じたところです。

今後、山野草園内の看板整備やコテージの建設、オートキャンプ場の再整備を予定しており、里山エ

リアの魅力創出を図っていきます。

このような記念事業のほか、13地方銀行70名の頭取・グリーンキーパーの皆様には、公民館や公園といった地域の方々が集う施設を中心に花壇管理や普及啓発活動を行っていただいております。また、栃津川、常願寺川沿いを拠点にさくらの管理を行っている団体（2団体）や地鉄駅にプランターを設置し管理している団体等、地域ぐるみで積極的に活動しておられる団体もあり、町の緑化事業に大きく貢献していただいているところです。



写真2 地域イベントにおける花苗の配布（普及啓発活動）

このほか、町では、観光客を花でおもてなしする事業にも力を入れており、地元の園芸店や地域住民の方々のご協力をいただきながら、町中心部への交通拠点である五百石駅前、立山黒部アルペンルートへの観光客が立ち寄る立山あるペン村、立山駅及びその周辺の観光施設において花壇管理を行っています。

最後になりましたが、今後も「みどり維新の町」を念頭に、次世代に誇れる「美しい町 立山」を目指してまいりますので、公益財団法人花と緑の銀行及び関係者の皆様には引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

みんなで取り組むハートの花壇を目指して

花と緑の銀行 砺波支店

南般若地方銀行 頭取 西田 光雄

1 南般若地区「かがやき花壇」

砺波市民憲章には『1 花や緑を愛し美しいまちをつくります・・・』とあり、自治振興会の年度事業計画にも花と緑の推進が掲げられています。

平成4年に自治振興会や婦人会などを中心に“南般若花と緑の推進協議会”が発足しました。

さらに、平成7年、砺波東部小学校グランド沿いに南般若地域花壇が造成され、平成10年には愛称を公募し「かがやき花壇」に決定しました。

その前段には、世代間交流を深める趣旨に沿い、高砂会、婦人会、児童クラブの皆さんを中心に、地区忠魂碑前の花壇が管理されていました。

その後、小学校の増改築により県道とスーパー農道の交差点北側に花壇を移転し、現在の「かがやき花壇」は、管理の利便性から自治振興会館の西側駐車場に再度移転されています。

当初は、自治振興会や婦人会役員等で実質的に造成管理を行いましたが、その後、婦人会組織の解散などもあり、地区推進協議会の構成員である自治振興会、公民館、学識経験者、そして地区花と緑の銀行の構成員である花壇委員やグリーンキーパーを中心に活動を行っています。



写真1 花壇植え付け後の除草

2 主な活動内容

現在「かがやき花壇」は、4月中旬頃から主にグリーンキーパーや花壇委員の皆さんで花壇の造成、デザイン検討、育苗や土壌改良、植栽、水やり、除草等の管理を3～4名の班で毎日行っています。花壇のデザインには従来からハート型を採用しています。また、各自治会では、公民館前や地域の花壇に花を植え、管理しています。

当地区には南北にスーパー農道が貫通しており、平成12年にはスーパー農道芝桜花街道管理事業に地区民総参加で取り組みました。道路の両側に377

本の植樹本が設置され、ハナミズキとその根元には芝桜が植えられています。チューリップフェア開催期間中はピンク、白の花がきれいに咲いています。現在では、小学生の通学路、若者のジョギング、そして年配者の散歩道となっています。自治振興会、花と緑の推進協議会が母体となり、毎月第3日曜日の早朝、南般若全地区民による環境美化（除草や夏場の水やり）が行われています。

10月末には夏花壇の撤去と春花壇のチューリップ球根、ビオラやパンジーの植え付けを行っています。また、地区公民館祭りでは1年の活動を写真等で展示しています。

3 成果及び今後の課題

当地区の花と緑の銀行活動は30年以上前から実践され、今日まで脈々と引き継がれています。

花壇委員は任期2年で、各自治会から2名選任いただき、早朝の水やり、植栽、摘花や摘芯を、グリーンキーパーの皆さんから教わりながら行い、中には、その後グリーンキーパーに着任し楽しく活動されている方も少なくありません。花壇コンクール審査会後には他地区の花壇見学会を行うなど、研鑽に努めています。

3年前から寄せ植え樽花壇に、地区の皆さんの投票で自治振興会長賞などの賞を授与しています。南般若「かがやき花壇」をホームページで紹介していますので是非ご覧ください。



写真2 寄せ植え樽花壇コンクール

コロナ感染に加え、少子高齢化、定年延長、再雇用などにより、活動への参加も厳しくなっていますが、今後も地区全体に花と緑の活動の輪が広がり、継続されて行くことを願い、末永く取り組んでいきたいと思っています。

富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン

～ 44 ツボミギボウシ ～

職藝学院

教授 渡 邊 美 保 子

ツボミギボウシは、朝鮮半島原産のクサスギカズラ科の宿根草です。花茎の高さは100cmほどで、7月下旬から8月中旬に鮮やかな青紫色のつぼみをふくらませます。名前のとおり、花は開かずつぼみのまま落ちてゆきます。長さ5cmほどの花が花茎の片側に互い違いに下向きに並びます。葉は長さ15cm幅7cmほど、小ぶりなので花壇の手前に植栽することができます（写真1）。



写真1 ツボミギボウシ。8月初旬。見ごろは、7月下旬から8月初旬頃。100cmほどの花茎につぼみをつけて下から順にふくらんでゆく。後ろは、セキヤノアキチョウジ。右はクサキョウチクトウ。青紫色の花を引き立ててくれる。

ツボミギボウシの新芽は、3月下旬ごろ地面から出てきます。濃茶色に染まった丸い木の芽のような新芽は、地面の色によく似ています。この美しい芽だしの瞬間を見逃さないように、この時期は毎朝花壇に通います。4月中旬になると、茶色の着物を身にまとったような姿になります（写真2）。ぴかぴか光る黄緑色の葉は、くるくると上手に丸められているのが分かります。まるでタケノコのようなのです。1ヶ月ほどかけて、丸められている葉を少しずつゆるめて一枚ずつ葉を広げてゆきます。重ならないように上手に放射状に広がります。まんべんなく光をもらうためです。7月になると、アスパラガスのような花茎が、葉を押し のけて伸びます（写真3）。葉の高さが30cmほ

どになっているので、葉をかき分けて見ないとわかりません。緑色のつぼみをつけた花茎は1日に3～4cmも伸びてどんどん長くなります。7月中旬には緑色の蕾が下から順に紫色に染まり始め、全体の花が下向きになる7月下旬から8月初旬に見ごろを迎えます（写真4）。

ツボミギボウシの一つの花は色づいてから10日ほどでしおれて、自然に落ちてゆきます。枯れた花を自ら落としてくれるのでお手入れは不要です。落ちた花を分解すると、雄しべと雌しべが折りたたまれて入っています。運がよければつぼみから雄しべと雌しべが突き出ている花を見ることができます（写真5）。

植え付ける場所は花壇の東側をおすすめします。午前中の光が十分当たり午後からの西日が当たらないところが良いでしょう。ツボミギボウシの西側に草丈が高くなるセキヤノアキチョウジやクサキョウチクトウなどを組み合わせますと西日が当たりにくくなり土の乾きを防いでくれます。



写真2 4月中旬。新芽一つ一つが広がって葉になる。毎年少しずつ株が大きくなる。



写真3 7月初旬。花茎が伸び始める。先端にたくさんのつぼみを付ける。



写真4 8月初旬。ツボミギボウシの花。この形が最もふくらんだ状態。



写真5 8月中旬。花茎の先端の花の中から雌しべと雄しべが突き出ている。

庭木に利用する樹種の特徴と管理 ～ イチイ ～

日本樹木医会富山県支部
樹木医 西村 正 史

富山市山間部の民家の庭に植栽されているイチイの小枝に枯れが目立ち、木全体が枯れるのではないかと心配され、枯れた小枝を2019年5月16日に（公財）花と緑の銀行に持ち込まれました。持ち込まれた枯れた小枝を調べるとともに、6月14日に現地でイチイの状況を目視等により調査しました。

今回はその結果をお知らせします。

1 持ち込まれた枯れた小枝が枯れた原因

枯れた小枝（写真1の左）には薄い緑色の部分が残っている針葉がわずかにありましたが、大半の針葉は枯れており、触ると針葉がパラパラと落ちました。枯れた小枝には小さな丸いものが多数ありました（写真1の左）。針葉を含め枯れた小枝には病害と思われる病状はありませんでした。

イチイは雌と雄が別々の木です。12月を過ぎるとイチイの花芽は大きくなり、雌の木の花芽は先が尖ってまばらに付き、雄の花芽は球状で密に付くという特徴があります。持ち込まれた枯れた小枝には球状のものが多数あったので（写真1の左）雄の木でした。2019年5月22日に富山県中央植物園の雄のイチイの小枝を調べたところ、2018年の枝と2019年の枝があり、前者の枝には球状の雄花が着いていました（写真1の右）。したがって、持ち込まれた枯れた小枝は2018年の12月には生存していましたが、翌年の1月から3月の間に枯れたのではないかと推測されました。最も可能性のある小枝の枯れの原因は、積雪によって小枝が損傷を受けて衰退し枯死に至ったものではないかと推測されました。

現地調査からイチイの樹冠には枯れた小枝があ

りましたが、目立つほどの量ではなく、木全体が枯れることはない判断されました。

なお、聞き取り調査からかなり以前に雪害で幹が折れ、現在のような状態になったとのことでした（写真2の左）。そのためか、雪害対策と思われる鉄骨の支柱が設置されていました。

2 現在のイチイの状況

現在の状況を把握するため、2023年7月10日に4年後のイチイの状況を見てきました（写真2の右）。葉量は多くなっており、樹勢は良好な状態でした。

3 維持管理

イチイは、成長が遅いものの、耐寒性が強く、寒地でもよく成育し、病虫害の発生もまれで、庭木として適しています。2019年の冬に発生した雪害によると推測された小枝の枯れは、4年後のイチイの観察からも樹勢に影響しないことが再確認されました。

この民家には、樹幹上部が枯れた状態のもう1本のイチイがありました。これもかなり以前に発生した雪害による幹折れであると推測されました。このような地域では、積雪による幹折れが心配されます。ある程度大きくなると剪定を行って樹高や葉量を調整し、一定のサイズに維持することが必要ではないかと思います。

なお、庭木としては赤い実を着ける雌の木をおすすめします。しかし、この赤い実の果肉以外には有毒ですので、気をつけてください。



写真1 左：持ち込まれたイチイの枯れた小枝。丸いものは雄花。
右：富山県中央植物園内で調査したイチイの枝。
Aは2019年の枝、Bは2018年の枝。



写真2 富山市八尾の民家のイチイ（樹齢は推定300年）。左の写真は2019年6月14日に、右の写真は2023年7月10日に、それぞれ撮影。左の写真の中央上の部位（赤丸）はスギの先端。右の写真には無いが、伐採されたものと思われる。

「わたしの寄せ植え」について

花と緑の銀行 緑花推進部

緑花推進部から「わたしの寄せ植え」について紹介します。この事業は、花苗等を使用した寄せ植えの制作と展示を通して、広く県民へ緑化意識の向上と地域緑化の推進を図ることを目的として、平成22年度から「花とみどり・ふれあいフェア」の開催に合わせて実施しています。近年は「富山フューチャー開発株式会社」の共催を賜り富山市婦中町の「フューチャーシティ ファボーレ」で開催しています。

事業の流れは以下のとおりです。

- ① 10月中旬にホームページやチラシ（各支店や植物園等で配布）により出展者を募集する。
- ② 1月中旬までに出品希望者は出品申込み票を郵送、FAX又はEメールで提出する。
- ③ 1月下旬に出品申込みが30を超えた場合は抽選により出展者を決定し、出展者案内等を郵送する。
- ④ 出展者は作品の制作を開始し、2月上旬に作品説明書を郵送、FAX又はEメールで提出する。2月中旬の展示開始日にあわせて会場（ファボーレ）へ搬入する。
- ⑤ 2月中旬の展示期間中（約1週間）に審査を行い、優秀作品はフェア開会式で表彰する。
- ⑥ 2月中旬の展示期間終了後、出展者は作品を搬出する。



写真1 展示状況

作品の規格は、高さ80cm以内で提供するトレイ（65cm×31.5cm又は41cm×41cm）に収まるもので

あれば、プランター・鉢・箱等の材質や形は自由です。また、植栽は根付きの植物を使用することとし、ドライフラワー・切り花・造花類の使用は審査で減点となります。

展示期間中の灌水は主催者が2日に1回程度行いますが、その他の管理（花柄摘み等）は出展者が行います。

審査は、審査員による採点と、「花とみどり・ふれあいフェア」の来場者等による投票点数を合わせて行い、優秀な作品については、賞状と副賞を授与します。「最優秀賞」等の他に、初出品作品の中から「新人賞」を選出する初めての方に優しい審査となっています。また、未受賞者にも参加賞を用意しております。



写真2 令和4年度 最優秀賞

この事業は今年度も実施することとしております。頭取・グリーンキーパーの方々には、これまで地域花壇等で培ってこられた技術を是非この機会に思う存分発揮していただきたいと思っております。たくさんの申込みをお待ちしております。

終わりに、花と緑の銀行では、こうした事業などにより県民が花と緑の交流を深めながら、元気な富山県をつくる、「花と緑が輝く元気やまの創造」を目標に、今後とも県民が主役の花と緑の県づくりを進めてまいります。



花で広がる仲間の幸せ

花と緑の銀行 朝日支店

泊一区地方銀行 頭取 舟橋 誠

令和4年に、花と緑の銀行の理事長表彰をいただきました。大変恐れ多いことと思っております。ありがとうございました。

私たちの地区では、9年前にグリーンキーパーの人材難でピンチを迎えましたが、区長共々相談の結果、地区の環境部員を花と緑の銀行のグリーンキーパーに任命することにより、人員不足を乗り切ろうと考えました。

当て職にしたことでグリーンキーパー12名の内、半数が毎年入れ替わるので、常にフレッシュな人材発掘が出来るようになりました。また、人数が増えたことにより整備出来る花壇面積が3倍になり、町内の緑化に貢献できていると感

じております。

地区の環境部と兼務にしたことにより、町内会と密接した緑化が出来るようになり、地元町内会長やOBなどの協力も得やすい環境を構築することができました。

今では花壇整備だけでなく、農業ボランティアとして里芋づくりに協力し、地区のイベントに芋鍋の材料を提供する体制まで発展しました。

今後、少子高齢化が進むなか人材確保の壁が再び現れることが懸念されますが、本年度におきましても一年性の花の如く、頼もしい仲間と共にその時々を力いっぱい咲かせるよう楽しんでいきたいと思ひます。



写真1 花壇植え付け



写真2 海浜公園花壇

お知らせコーナー（8月～12月の主なイベント）

 “富山県花と緑の祭典2023 置県140年記念・財団設立50周年記念 花と緑の大会”を開催します。

・日時：令和5年10月24日（火） 13：30～16：15

・場所：富山県民会館ホール

・内容

- （1）花と緑の功労者表彰
- （2）感謝状の贈呈
- （3）富山県花と緑のコンクール入賞者表彰
- （4）花と緑の記念講演会

演題：「花の流通・消費とフラワーデザインの魅力」

講師：フラワーデザインアトリエQuelle（クヴェレ）主宰

公益社団法人 日本フラワーデザイナー協会本部講師

高木 優子 氏

○同時開催

- ・銀行活動の特別展示 ～ 50年のあゆみ ～ （1階ロビー）
- ・花と緑のコンクール入賞作品及び花壇写真展示（2階ホール前ロビー）
- ・スワッグ講習会：講師 高木 優子 氏
（10月25日（水） 9：30～11：30、県民会館302号室）



花と緑の銀行は、今年50周年を迎えました。

富山県中央植物園

- 夜間開園 夜の熱帯植物探検 8月25日(金)・26日(土) 18:30～21:00 (入園は20:30まで)
- 特別展 「富山県中央植物園の30年」 9月8日(金)～10月1日(日)
- 第31回 TOYAMA植物フォーラム
「ふるさと富山の植物を守ろうPart IIー生物多様性保全推進と市民の取り組み」
9月24日(日) 13:30～16:00
- 第35回 ボタニカルアート展 10月13日(金)～10月18日(水)
- 秋季さつき・盆栽展 10月20日(金)～10月22日(日)
- 第56回 富山県おもと展 10月27日(金)～10月29日(日)
- 第6回 サボテン・多肉植物展 11月3日(金・祝)～11月5日(日)
- 第17回 秋のラン展 11月24日(金)～11月26日(日)
- ウィンターフェスin植物園 12月8日(金)～12月10日(日)
- 花と緑のコンクール入賞作品展 12月15日(金)～12月25日(月)

(詳細はHPをご覧ください。お問い合わせは富山県中央植物園へ。参加には入園料が必要です。)

県民公園 頼成の森

- きのご狩りと観察会 10月8日(日) 9:30～13:00 定員:50名 参加費:500円 ※軍手必要
- リースづくり教室 11月12日(日) 9:30～11:30 定員:20名 参加費:1,000円
- 頼成の森“感謝の集い” 11月19日(日) 9:30～14:00 定員なし 参加費無料
・林内散策、オカリナ演奏、抽選会、きのご汁などを楽しむ
- 干支づくり工作教室 12月3日(日) 9:30～11:30 定員:20名 参加費:600円 ※軍手必要
- ミニ門松づくり教室 12月17日(日) 9:30～12:00 定員:20名 参加費:1,000円 ※軍手必要

(詳細はHPをご覧ください。お問い合わせは県民公園 頼成の森へ。)



頼成の森 花しょうぶ祭り (令和5年6月)

◆お願い

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止等のため、各行事の中止や内容の変更を行う場合があります。ご理解のうえ、各行事の詳細についてはその都度担当部署へお問い合わせください。

編集発行 公益財団法人 花と緑の銀行
〒939-2713 富山市婦中町上轡田42
TEL 076-466-2425 FAX 076-465-5923
<https://www.bgtym.org/fgbank/>

富山県中央植物園
〒939-2713 富山市婦中町上轡田42
TEL 076-466-4187 FAX 076-465-5923
<https://www.bgtym.org/>

県民公園頼成の森
〒939-1431 砺波市頼成156
TEL 0763-37-1540 FAX 0763-37-1450
<https://www.bgtym.org/ranjyounomori/>



花と緑の銀行だより 228号

発行日 令和5年(2023年)8月
再生紙を使用しています。